

W20 パネル・ディスカッション②「労働におけるジェンダーギャップを解消する:ハッピーなワークとライフの実現へ」

現状・課題

G20 各国は 2014 年ブリスベン首脳会合において「2025 年までに労働参加におけるジェンダーギャップを 25%縮小する(25x25)」と宣言した。多くの国は 25x25 達成にむけて前進しているが、労働におけるジェンダーギャップは多岐にわたり、多くの課題に直面している。女性の労働参加を促進するには、法令、社会規範上の障害を取り除く、保育園などのインフラを拡充する、賃金格差を解消する、柔軟な働き方を促進する、ハラスメントのない健全な職場を整備することなどが急務だ。さらに、女性に偏っている家事や育児を男性も担い支え合うこと、女性がキャリアを築き、管理職や役員としてポリシーや組織決定への関与を強化していくことも重要だ。また、技術革新が国境を越え加速する中、テクノロジー分野でより多くの女性が活躍するために、デジタルスキル習得を促進するなど、未来の仕事に備える施策も不可欠である。

2018 年ブエノスアイレス G20 首脳会合では、ジェンダーを主流化していくことが共同声明で明言された。今年の W20 サミット東京では、一段踏み込んだ具体策を議論していく。

論点

- 女性の労働参加を促すために有効な政策、インフラにはどんなものがあるか？
- 企業はどんな重点施策を実行し、どのような成果がでているのか？
- 女性がやりがいのある仕事につき、キャリア構築をしていくにはどんな仕組みが必要か？
- 女性リーダーの育成と登用を加速する上で有効な施策は何か？
- 女性が活躍する上で障害となる社会的規範とは何か？障害を取り除くには何が必要か？
- 未来の仕事において女性の強みを活かすには？新しい働き方のカタチとは？